

Series. 火薬製造所

vol.8 77年前、宇宙線を見つめた場所で

概要

日時：令和8年2月7日（土）午前10時から午前12時まで

形式：巡検

会場：史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」旧理化学研究所

講師：学芸員 杉山宗悦・中村新之介

参加者数：33名（7名欠席）

応募者数：66名

※点と点と展「宇宙線研究室/建物/記録」（令和7年12月23日から令和8年1月8日まで、会場は板橋区立中央図書館）のラーニングプログラムとして開催



企画の趣旨

本講座は令和7年12月23日から令和8年1月8日にかけて開催した点と点と展「宇宙線研究室/建物/記録」のアフタープログラムとして開催しました。

研究室の移転で「空っぽ」になった旧理化学研究所宇宙線研究室の建物を、記録を通して考えた展示内容にちなみ、「宇宙線を見つめた場所」を実際に見学する講座として企画しました。

タイトルの「77年前」とは、昭和24年(1949)を指します。この年は宇宙線研究室に関するさまざまな記録が残されており、それを建物と比べながら丁寧に見ていくことで、宇宙線研究室の様子を窺い知ることができます。

当日の行程

- 09：40 受付開始
- 10：00 開始、挨拶、趣旨説明
- 10：05 全体見学（アパート跡＝火薬製造所時代の「爆薬実験室」）
- 10：15 2班に分かれて移動
- 10：20 班別見学 A班→1号館、B班→2号館
（例）B班の場合：11号室→13号室
- 10：50 交代
- 11：00 班別見学 A班→2号館、B班→1号館
（例）B班：廊下→1号室→2号室→7号室→10号室
- 11：30 質疑応答
- 11：35 自由見学、アンケート記入（自由解散）
- 12：00 終了

方法

2班に分かれて行う学芸員による解説ツアーをベースに展開しました。今回は建物と記録に注目してもらうために、下記3点の工夫を加えました。

① 建物をじっくり鑑賞する。

参加者のみなさんの目で建物を見てもらうため、あえて初めから説明せず、部屋に案内したらまず各自で隅々をじっくり鑑賞してもらいました。学芸員は必要に応じて、注目すべき箇所をポインティングし、参加者の鑑賞をサポートしました。

② 古い写真や記録と見比べる。

建物の各部屋に、古い写真や記録のパネルを用意し、建物と比較して鑑賞できるようにしました。学芸員は解説の際、当時と何が一緒に何が違うのか、記録と建物を見比べながら説明しました。

③ 自由見学の時間をつくる。

学芸員の案内による班別見学の後、参加者の皆さんがもう一度建物を振り返る意味で、約30分間の自由見学の時間を用意しました。

主な内容

今回の講座では、配布資料「見学のしおり」を用意しました。これは見学後に内容を振り返られるよう、やや長文の読み物形式にまとめました。（→講座の詳しい内容は同資料を参照のこと）

当日の様子と参加者の声

建物に対する眼差しの変化

今回は初めから説明を加えず、まずは部屋の様子を参加者自身で鑑賞する時間を設けました。1部屋目では何を見て良いのか戸惑う様子も見られましたが、次の部屋、また次の部屋と移るたびに、目つきが変わっていくことに気づきました。何か秘密が隠されているのではないかと、床から天井まで覗き込んだり、カメラで撮影してみたり、次第に参加したみなさんの眼差しが変わってゆき、進んで建物を観察し始めた様子が印象的でした。

「見慣れた風景の見え方が変わった」

班別見学後、ある参加者の方とお話していると、「史跡や地域の歴史を知って、見慣れていたはずの風景の見え方が変わった」と仰っていて、素敵な気付きだと思いました。

あとがき

当史跡の建物は全て戦前の工場・研究所の建築で、実用を重視した装飾のない建物です。時折、「美しくない」から「あまり見どころがない」という声も聞かれます。確かに「わかりやすすくない」建物ではありますが、だからといって「見る価値がない」というわけでは決してありません。

本講座では、参加者のみなさまと対話しながら、建物をじっくりと眼差す時間を大切にしました。そして、この場所で活動していたたくさんの人たちの様子を、記録という根拠を持ちながら想像することができました。価値は見出すことが大事だと思います。

今回は応募者多数につき抽選を行い、残念ながら落選された方もいらっしゃいましたが、どうぞご容赦ください。当日の最高気温は3度、雪の散らつく生憎の天気でしたが、たくさんの方にご参加いただきました。どうもありがとうございました。(学芸員)

作 成

令和8年2月9日

板橋区教育委員会事務局史跡公園担当課・生涯学習課

※本資料の複写、複製、二次利用は私的使用を目的とする場合に限りません。